

国語科

前坂 馨

松原 美佳

橋本 正恵

助言者 折川 司（金沢大学）

1. はじめに

Society5.0 の実現を目指す中、本校においては、実験的に新設した「創造デザイン科」の中で、それらの育成について可能性を探ってきた。

「創造デザイン科」は、「総合的な学習の時間」の中で実践が求められる探究プロセス（図1）とは異なり、「デザイン思考」のプロセス（図2）によって学習活動が駆動している。

「デザイン思考」は、Society5.0 以降の社会において新たな価値を創造する資質・能力の一つであり（表1）、その実践においては、価値ある新しいものを生み出すため、潜在的なニーズに迫る営みが重視されている。これは、「総合的な学習」における探究プロセスと大きく異なる点である。協働的プロジェクト型学習である「創造デザイン科」では、学校内や地域にある潜在的な問題を生徒が見出し、問題を解決するために最適だと思われる課題を設定していく。こうした問題発見及び課題設定については、日常生活や社会に目を向けたときに湧き上がってくる疑問や関心に基づいて自ら課題を見つけるという点で、「総合的な学習」における探究プロセスと類似している。

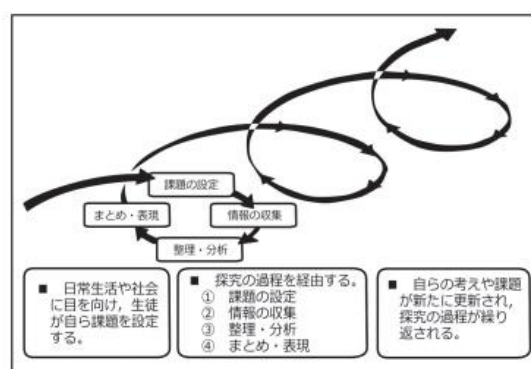


図1 探究的な学習における生徒の姿



図2 デザイン思考のプロセス

表1 新たな価値を創造する資質・能力とその定義

新たな価値を創造する資質・能力	定義
1 創造に関する基礎的な知識・技能	創造やイノベーションの定義、マインドマップ、ブレインストーミングなど、新しく価値あるものを生み出すことに関する基礎的な知識・技能。
2 デザイン思考	問題解決の思考法の一つ。対象とする問題を解決するために、認識されていない内なる課題を見出し、発散的思考と収束的思考を繰り返すことで、設定した課題を解決するための最適な手立てを考えていく思考法。
3 イノベーターのマインドセット	「既存の考えに捉われることなく、斬新な発想を歓迎し、失敗してもいいからひとまずやってみる。」「自分には、周囲の世界を変える力がある。自分には、何かを生み出し、実行する力がある。」など、イノベーターが有している態度。

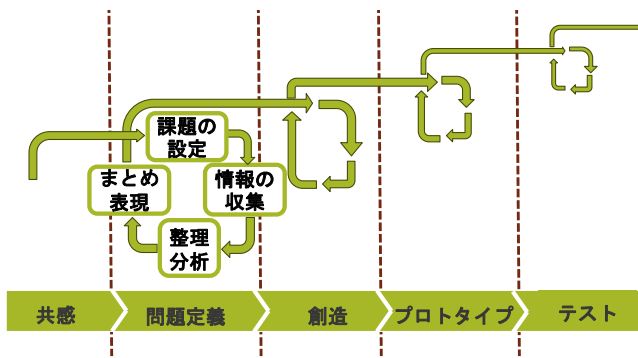


図3 「デザイン思考のプロセス」と「探究プロセス」の関係

学習過程	(1) 指導事項			(2) 言語活動例		
	第1学年	第2学年	第3学年	第1学年	第2学年	第3学年
書くこと	題材の設定	ア	ア	アイウ (文学的文章を書く活動)	アイウ (文学的文章を書く活動)	アイ (文学的文章を書く活動)
	情報の収集			アイウ (説明的な文章を書く活動)	アイウ (説明的な文章を書く活動)	アイ (説明的な文章を書く活動)
	内容の検討					
	構成の検討	イ	イ	イ		
	考えの形成	ウ	ウ	ウ		
	記述					
	推敲	エ	エ	エ		
共有	オ	オ	オ			

図4 「書くこと」領域の構成

「書くこと」を鍛えることは、「書くこと」を育むこととも言える。

また、「書くこと」領域の構成（図4）に注目すると、その過程と「総合的な学習の時間」における「探究プロセス」に類似点が見られる。表2に示したように、「書くこと」領域の学習過程は、4ステップからなる「探究プロセス」と類似している。「探究プロセス」も「書くこと」の学習過程も、「題材・課題の設定」→「情報の収集」→「構成の検討あるいは整理・分析」→「記述・表現」といった学習活動を発展的に繰り返していく。「書くこと」の指導内容は、系統的・段階的に上の学年につながっており、螺旋的・反復的に繰り返しながら学習し、資質・能力の定着を図ることが基本となっている。「総合的な学習の時間」においては、学年ごとの明確な指導事項は示されていないものの国語科の学習と同じように螺旋的・反復的に繰り返しながら学習を進めていく。この点でも「総合的な学習の時間」には、「書くこと」との共通点がある。したがって「書くこと」領域の学習において、「探究プロセス」の経験ができ、「探究プロセス」を経験することが、「書くこと」領域の学習プロセス及び、国語科の見方・考え方を強化すると言える。つまり、国語科の「書くこと」と探究プロセスは、一見無関係なルールの上でありながら、実は補完的に機能していると言える。

ここまで、「デザイン思考」と「書くこと」領域の親和性、「探究的な学習」と「書くこと」領域の類似点について述べた。これらのことから、国語科の見方・考え方を活用する「書くこと」領域の学習は、「探究的な学習」と「デザイン思考」のいずれにも寄与できると言える。したがって、国語科の学習において、国語科の見方・考え方を意図的・計画的に育成することに、意義がある。

本校国語科は、この類似点に着目し、「デザイン思考のプロセス」と「探究プロセス」の関係を図3のように整理した。「デザイン思考」の5つのステップの中に、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のサイクルが潜在的に位置付いており、それらが継続的・発展的に繰り返していくことで成り立っていると捉えた。

一方、『中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 総合的な学習の時間編』には、国語科も「探究的な学習」と、「創造デザイン科」の基盤となる「デザイン思考」の両方に、積極的に関わっていく必要があると書かれている。

「デザイン思考」も「書くこと」も、思考することによって考えを形成していく点が共通している。このことは、令和3年度からの「創造デザイン科」の実践でも確認できており、「デザイン思考」と「書くこと」領域との親和性が高く、互いの力を補完し合いながら高めていくことが分かっている。ゆえに、国語科において「書くこと」を鍛えることは、「デザイン思考」を育成することにつながると言える。逆に「デザイン思考」

表2 「総合的な学習の時間」と「書くこと」領域の類似点

総合的な学習の時間		学習過程	「書くこと」		
探究プロセス			第1学年	第2学年	第3学年
課題の設定	①日常生活や社会に目を向けた時に湧き上がってくる疑問や関心に基づいて、自ら課題を見付け	題材の設定	日常生活の中から集める	社会生活の中から集める	
情報の収集	②そこにある具体的な問題について情報を収集し、	情報の収集 内容の検討	集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする	多様な方法で集めた材料を整理し、伝えたいことを明確にする	集めた材料の客観性や信頼性を確認し、伝えたいことを明確にする
整理・分析	③その情報を整理・分析したり、知識や技能に結び付けたり、考えを出し合ったりしながら問題の解決に取り組み	構成の検討	段落の役割などを意識する	段落相互の関係などを明確にする	論理の展開などを考える多様な読み手を説得できるようにすること
まとめ・表現	④明らかになった考えや意見などをまとめ・表現し、	考えの形成 記述	根拠を明確にしなが、説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする	根拠が自分の考えを支える上で適切かどうかを考えながら説明や具体例を加えたり、表現の効果を考えて描写したりする	表現の仕方を考えたり資料を適切に引用したりするなどして記述する
		推敲	表記や語句の用法、叙述の仕方などを確かめる	表現の効果などを確かめる	目的や意図に応じた表現になっているかなどを確かめる
	そこからまた新たな課題を見付け、更なる問題の解決を始める	共有	読み手からの助言などを踏まえて、自分が書いた文章のよい点や改善点が見いだす視点として、	よい点や改善点を書き手自身が	論理の展開など

2. 探究的な活動（創造デザイン科）との関わりについて

(1) 探究的な活動に生かされると考える資質・能力について

昨年度本校国語科では、「国語科」の学びが「創造デザイン科」の学びと深く結びついており、「国語科」の学びが「創造デザイン科」の学びに活用できることを学習者が実感できるような実践に取り組むこととした。具体的には、「書くこと」を学習目標の一つとし、それを言語活動の中心に据えた。さらに、「探究的な学習」と「書くこと」領域の学習過程のいずれにも共通していること、また学習過程の前半部に位置すること、Society5.0の実現を図る上で情報活用能力の育成が求められることから、「情報の収集」に重点を置いた。その結果、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」の各過程において「相手意識・他者意識」を持たせることにより、「情報読解力」「文章表現力」の向上が見られた。さらに昨年度7月と1月に実施したアンケートでは、「『創造デザイン科』に関わる教科」として「国語科」を挙げた生徒の割合が増加が見られた。（1年生：55%→62%，2年生：52%→56%，3年生：44%→54%）。半数以上の生徒が「創造デザイン科」の学びに「国語科」の学びが活用できると考えているといえる。「国語科」の学習は、「探究的な学習」「デザイン思考」いずれも下支えするものであることが、確認できた。

今年度は、「デザイン思考のプロセス」の後半にあたる「プロトタイプ」で実践を行う。そして、昨年度に引き続き単元の目標の一つが「書くこと」であり、「書くこと」が言語活動の核となる単元を構想することとした。昨年度本校研究紀要において、「後半の過程に進むにつれ、教科用図書の教材から離れ、学習内容が多様化することが予想される。そうなると、学習内容・学習目標が多方面に渡り、教師の指導力が問われる。」と総括している。さらに、今年度「プロトタイプ」で実践を進める際、「『デザイン思考のプロセス』の後半に進むにつれ、「探究のサイクル」を何度も繰り返し回していき、ブラッシュアップされていくのではないかと考えた。これらのことについても、実践を通じて検証していきたい。

① 1年生 「『竹取物語』の魅力を広告で発信しよう！」

「竹取物語」は、現存する日本最古の物語であり、現代にも読み継がれ、親しまれている作品である。それは、作品に魅力があるからといえる。魅力の一つに、現代にも共通する人間の醜さや滑稽さについて皮肉を交えながら描かれて点がある。また、所々に言葉遊びが用いられている点もある。生徒の中には、現代の我々には理解できない相違点に興味を持つ者もいるであろう。そのような魅力を発見し、「書く」活動につなげたいと考えた。

多くの生徒は、小学校において長い文章を書く経験を積んでいる。そのため、短時間で文章を書くことができる。しかし、一文が長く主語と述語がねじれていたり、どこを修飾しているのか分かりづらかったりする。長い文章を書くことはできるが、短い文章でまとめることに課題を抱える生徒が多い。そこで本単元では、キャッチコピーという短い文章に「竹取物語」の魅力をまとめさせることにした。ただし、キャッチコピーだけでは伝えきれないこともあるので、それはPR文として書かせることとした。そして、これらを紙面広告として制作することを言語活動とし、単元のゴールに据えることにした。

教科書所収の原文及び口語訳だけではなく、それ以外の部分に興味・感心を広げ、読む活動を通して、一人ひとりに「竹取物語」の新たな魅力に気づかせていく。それをPR文にまとめ、班で読み合う。読み合った互いのPR文に適したキャッチコピーを互いに作り合うことで、違った視点からアドバイスしたり、新たなアイデアを生み出したりするきっかけにしたい。そして、自分が発見した魅力を短い文章に凝縮させることができているか、あるいはPR文に魅力を伝えるような適切な場面や心情を取り上げているかについて吟味するとともに、効果的な叙述の仕方について学習する機会としていく。そうして集めた情報を、改めて整理・分析し、文章を何度も練り上げることを繰り返して、最終的なキャッチコピーとPR文にしたい。

② 2年生 「学習してきた表現を用いて人物の魅力を伝えよう」

2年生では昨年度「共感」に重点を置いた授業を積極的に行い、相手目線で物事を考えたり、相手の求めていることを考えたりする姿勢を育んできた。今年度は昨年度の学びを生かしたうえで、デザイン思考のプロセスにおける「プロトタイプ」に関する学習に取り組んでいく。

そこで、教材「走れメロス」および「構成や展開を工夫して書こう」を基に、「人物の魅力を相手に伝える」という観点をもたせる活動を行う。

「走れメロス」では、登場人物の描写を丁寧に読み取らせていくことにより、人物の魅力がどのように表れているのか、読者はどのように感じるのかを確認していく。そこで学んだことを基に個々で物語を書かせる。この学習において、生徒には常に「人物の魅力を伝えるにはどうすればよいか」を意識させる。どのような描写を入れ、どのような書き方をすればよいかを意識させ、それを見せ合うことで個々の「書く」力は高まっていくと考えられる。また、昨年度の学習を踏まえるという意味でも、「読む人にとって」という視点も逐一生徒には伝えていく。「自分がこう書きたい」ではなく、「読者がどう感じるか」が今回の学習の根底になくってはならない要素である。

3. 単元計画・学習指導案

(1) 第2学年

①単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
① 抽象的な概念を表す語句の量を増やすとともに、類義語と対義語、同音異義語や多義的な意味を表す語句などについて理解し、話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。 ((1)エ)	① 「読むこと」において、文章を読んで理解したことや考えたことを知識や経験と結び付け、自分の考えを広げたり深めたりしている。 (C(1)オ) ② 「書くこと」において、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしている。(B(1)オ)	① 積極的に登場人物の人物像について自らの知識や経験と照らし合わせながら考え、学習課題に沿って考えたことを伝え合おうとしている。

②単元の流れ

「走れメロス」

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2 ・ 3	○ 単元の目標と今後の授業の流れについて知る。 ○ 気になった登場人物を理由も含めて話し合う。 ○ 本文を通読し、疑問と感想をまとめる。 ○ 場面の展開に即して、メロス、セリヌンティウス、ディオニスの三人の人物像について学習する。 ○ 次の時間の学習の見通しを持つ。	・自分にとっての推しの登場人物を最後に紹介することを伝える。 ・ノートに記入させる。 ・主な登場人物の言動に注目するように伝える。 ・文章を七つの場面に分けさせ、場面ごとに学習を進めていく。 ・それぞれの場面で、人物の心情や考え方が分かる表現に線を引かせる。 ・心情や考え方が変わったと思われる表現にも着目させ、どのように変わったのか、なぜ変わったのかも考えさせる。 ・「推しの登場人物」のことを相手に説得力をもって伝えるには、文章の表現を根拠にすることはもちろん、自らの体験や知識と照らし合わせることも大切だということを確認する。	[知識・技能] ① <u>ノート</u> ・ここでは、登場人物の心情や考え方が現れた抽象的な語句に着目しているか確認する。

4	○ 「推しの登場人物」についての紹介をスライドにまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> ・スライドはキーワードを中心にしたものとし、「見やすい」ことを意識するよう伝える。 ・3～4人班で互いのスライドを見せながら発表の練習も行わせる。 ・スライドや発表について、班のメンバーからも意見を聞きながら自分のスライドを作っていくように伝える。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① <u>行動の観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、学習課題に沿って、その根拠を含め、互いの作品の読み方を伝え合おとしているか確認する。
5	<p>○ 3～4人班を作り、作成したスライドを基に発表する。</p> <p>○ 発表の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時とは違う班を作らせ、その班の中で発表を行わせる。 ・発表でどのようなことを話したのか、ワークシートに記入させる。 ・発表を聞いて、改めて「推しの登場人物」とその理由を記入させ、単元の初めに書いた文章を比べさせる。 	<p>[思考・判断・表現] ② <u>ワークシート、スライド</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、登場人物の紹介において自らの知識や経験と結び付けているか確認する。

「構成や展開を工夫して書こう」

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1 ・ 2	<p>○ 「自分」についての物語に関する題材を決定する。</p> <p>○ 物語を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分」をモデルとした登場人物の魅力が伝わるような題材にさせる。 ・主人公でなくてもよいと伝える。 ・どのような語句や表現を用いればよいか考えさせる。 ・ワークシートにまとめさせる。 ・600字程度で書かせる。 ・狙った人物が魅力的に描かれているか考えさせる。 ・「読み手」がどのように感じるかを常に意識させる。 	<p>[知識・技能] ① <u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、登場人物の魅力を伝えるために様々な語句や表現を用いているか確認する。
3	○ 書いた物語を見せ合い、意見交流を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・多くの人と意見交流を行い、一つの見方や考え方に縛られないようにする。 ・観点を「人物」に置き、その人物に関する表現や語句に着目させる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ① <u>行動の観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、観点に沿ってお互いに表現や語句に対する意見交流を行っているか確認する。

4	<p>○ 交流をもとに物語を完成させる。</p> <p>○ 単元の振り返りを行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・交流で出された意見をもとに、再度自らの物語を確認させる。 ・交流を行いながら書かせる。 ・自分の物語において、人物を魅力的に描くためにどのようなことを工夫したかワークシートにまとめさせる。 	<p>[思考・判断・表現] ②</p> <p><u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ここでは、他者からの意見をもとに文章を改善し、語句や表現を工夫しているか確認する。
---	---	---	---

国語科 学習指導案

日 時：令和6年11月23日（土）

指導者：松原 美佳

場 所：1年4組教室

1 単元名・題材名

「竹取物語」の魅力を広告で発信しよう！

2 単元・題材の目標

- ・音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむことができる。 [知識及び技能] (3)ア
- ・根拠の明確さなどについて，読み手からの助言などを踏まえ，自分の文章のよい点や改善点などを見いだすことができる。 [思考力，判断力，表現力等] B(1)オ
- ・場面の展開や登場人物の相互関係，心情の変化などについて，描写を基に捉えることができる。 [思考力，判断力，表現力等] C(1)イ
- ・言葉がもつ価値を認識するとともに，進んで読書をし，我が国の言語文化を大切にして思いや考えを伝え合おうとする。 「学びに向かう力，人間性等」

3 指導に当たって

(1) 教材観

「竹取物語」は，現存する日本最古の物語であり，現代にも読み継がれ，親しまれている作品である。それは，作品に魅力があるからといえる。主人公である「なよたけのかぐやひめ」は月の世界の人であり，その成長ぶりや美しさは異次元のものである。育ての親である翁と媪は，娘をこよなく愛しており，愛するがゆえ先行きの心配がない殿方のもとへ姫を嫁がせたいと考えている。姫へ求婚する貴公子や帝も個性的であり，現代に通ずる人間の醜さや滑稽さについて皮肉を交えながら描かれている。また，所々に言葉遊びも用いられている。生徒は，現代との共通点や相違点を発見し，そこに「竹取物語」の魅力を発見することが期待される。

(2) 生徒観

生徒は，小学校において「平家物語」や「枕草子」などの古典の一部を音読した経験がある。「竹取物語」については，絵本「かぐやひめ」を読んだことがあるという生徒も多い。しかし，本教材で初めて本格的に古典にふれる生徒がほとんどである。古典を英語のような他言語と感じている生徒もおり，不安や苦手意識をもつ生徒もいる。一方，古典独特のリズムに興味・関心を抱き，楽しみに思う生徒もいる。

そこで，音読を通して古典独特のリズムに触れ，古文を読み味わわせるきっかけとしたい。そして，教科用図書所収以外の場面について，原文と口語訳，絵本等複数の資料から読み取らせることで，現代の自分たちのものの見方や考え方と比較し，共通点や相違点があることに気づかせたい。

本単元では，現代まで伝わる「竹取物語」の魅力を広告にして発信することを，ゴールに据えている。多くの生徒は，小学校において長い文章を書く経験を積んでいる。そのため，文章を書くことに苦手意識を持つ生徒は，どちらかと言えば少ない。しかしながら，長いために主語と述語がねじれていたり，どこを修飾しているのか分かりづらかったりする文章も散見できる。また長い文章を書くことはできるが，逆に短い文章でまとめることに課題を抱える生徒が多い。

(3) 指導観

生徒は前述のような課題を抱えており、それらを解決する取組として、本単元を設定した。「竹取物語」に興味・関心を惹きつけるため、その魅力をキャッチコピーにまとめさせたい。そして、それだけでは伝えられない内容をPR文にし、広告を制作することとした。互いの文章を読み合うことで、根拠として最適な場面や心情変化を取り上げたり、作品の魅力を伝えるために効果的な叙述の仕方をしたりすること等を学んでいくことが期待される。そして同時に、「竹取物語」の読みや考えが深まるはずである。本単元を通して、これから出会う古典への興味・関心につなげていきたい。

4 単元・題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り、古文や漢文を音読し、古典特有のリズムを通して、古典の世界に親しんでいる。(3)ア)	①「読むこと」において、場面の展開や登場人物の相互関係、心情の変化などについて、描写を基に捉えている。 (C(1)イ) ②「書くこと」において、根拠の明確さなどについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点などを見いだしている。 (B(1)オ)	①積極的に登場人物の相互関係や心情の変化を捉え、学習の見通しをもって、『竹取物語』の魅力を広告で伝えようとしている。

5 指導と評価の計画

次	時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	1	○学習のねらいや進め方をつかみ、学習の見通しをもつ。 ○絵本「かぐやひめ」を想起し、概要を確認する。 ○冒頭部分を音読し、古典特有のリズムに親しむ。	・「竹取物語」を読み、現代に伝わる作品の魅力に気づき、それを広告にして発信するという学習の見通しをもたせる。 ・「かぐやひめ」の印象を自由に発言させる。 ・歴史的仮名遣いの読み方を確認しながら音読させる。	[知識・技能] ① <u>音読テスト</u> ・後日、音読テストを実施し、評価する。
	2 ・ 3 ・ 4	○3つの原文部分を音読し、大体的内容を理解する。 ○登場人物たちの心情を考える。 ○内容や、場面の工夫、おもしろさについてまとめる。	・歴史的仮名遣いや古語の読みに注意しながら音読させる。 ・親、娘であり月の住人、求婚者それぞれの立場から、どんな気持ちで行動しているのか捉えさせる。 ・現代の自分たちの思いや行動と通じるところと、共感できないところをまとめさせる。	[思考・判断・表現] ① <u>ワークシート</u> ・登場人物の立場から、現代の自分たちのものの見方や考え方と比較し共通点や相違点をまとめようとしているかを確認する。

	5	<p>○「竹取物語」の中から、興味をもった他の部分を読む。</p> <p>○登場人物たちの心情や、場面の描き方などから、作品の魅力をまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・原文と口語訳、絵本等複数の資料を準備し、多角的な視点から本文を理解できるようにする。 ・表現の媒体に関係なく共通する「竹取物語」の魅力、媒体や訳者や制作者によって強く伝わる魅力についてまとめさせる。 	<p>[主体的に学習に取り組む態度] ①</p> <p><u>完成作品, ワークシート, 観察</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第5～8時の振り返りの内容等を合わせて評価する。
2	6 ・ 7 ・ 8	<p>○「竹取物語」の魅力を、内容の紹介をしながら PR 文にし、キャッチコピーにまとめる。</p> <p>○班でお互いの文章を読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>○作品の魅力を広告にまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・映画の広告を例示し、まとめ方を理解させる。 ・全文あるいは場面や人物を絞ってもよいこととし、話の内容を紹介しながらその魅力を PR 文として書かせ、キャッチコピーにまとめさせる。 ・各自が感じた魅力が PR 文にまとめられているかという視点で、読み合わせる。 ・情報を取捨選択し、分かりやすい文章になるよう助言し合う。 ・文字の大きさや配置・配列等についても工夫し、まとめるよう声かけする。 	<p>[思考・判断・表現] ②</p> <p><u>ワークシート</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み手に自分の考えが、より分かりやすく伝わるような表現を、助言を踏まえ、検討しているか確認する。

6 本時の学習（第2次中2時）

(1) 目標

- ・「竹取物語」の魅力がより伝わるように、互いのアドバイスを踏まえ文章にまと直すことができる。

(2) 準備・資料等

ワークシート

(3) 展開

○学習内容 ・学習活動	・指導上の留意点など 【評価規準】(評価方法)	時間
○前時までの学習を振り返り、本時の課題を知る。	・単元のゴールを確かめ、本時の学習課題を確認する。	4
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> アドバイスをし合って「竹取物語」の魅力がより伝わるようなキャッチコピーにしよう。 </div>		
○班に分かれ互いの PR 文を読み合い、その PR 文に合うキャッチコピーを書き合う。	・PR 文に書かれた「竹取物語」の魅力を読み合わせ、その情報を基に、キャッチコピーにまとめさせる。	15
○各 PR 文に合わせて書いたキャッチコピーを発表し合い、よい点、改善点、分かりづらい点を伝え、アドバイスし合う。	・書いたキャッチコピーが、PR 文を書いた本人が伝えたい魅力を的確に表現されているかについて、PR 文を書いた本人の思いを尊重し、話し合いを進めさせる。 ・話し合いの中で、PR 文が自分の感じた魅力をうまく伝えきれていないと感じた場合は推敲させる。 ・PR 文について、正しい情報か、適切な根拠か、正しい表記や語句の用法がされているか、より効果的な表現方法はないのか等、班で話し合うことで、より「竹取物語」の魅力を広げたり深めたりできるようにする。	20
○アドバイスを踏まえ、キャッチコピーを書き直す。	・個人で考え直す時間を確保し、各自が考えた魅力がどういったことだったのか再度確認する時間を設定する。 ・時間があれば、書き直したキャッチコピーを読み合わせる。	7
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> 友人からの案や助言を踏まえ、新たな「竹取物語」の魅力に気づいたり、深めたりすることができ、その魅力をキャッチコピーとして短い文章にまとめることができた。 </div>		
○本時の振り返りと、次時の確認をする。	・本時の学習について振り返りを行うことで、次時への意欲喚起を図る。	4